

ティーム・ティーチングで行う文法事項の確認と練習

藤原 陽子*

1. はじめに

岡崎・浜田 編(1990)において述べられているように、ティーム・ティーチングは英語担当教員と英語指導助手が協力して、新しいアイディアや指導技術で授業を活性化し言語活用能力を高めるコミュニケーションの場をできるだけ多くつくり出すことを目指している。

ティーム・ティーチングは、ゲームやジャズチャンツといった新教材導入前の活動、暗唱や文型練習といった前時の復習、オーラル・イントロダクションやオーラル・インタラクションによる新教材の導入など、さまざまな場面で進めていくことができる。

本稿においては、その中でも、会話による前時の文型や文法事項の確認をティーム・ティーチングで行う場面を中心に上げてみたい。言語の知識を自動的に操作できるように練習する段階は、学習者が伝達に有効な言語能力に転化していくための大切なプロセスであり、AET の特性を生かした練習を展開していくことにより練習を活性化させることができると考えられるからである。

2. 実践例

平成 11 年 7 月 16 日(金) 3 校時に、山口市立白石中学校 1 年 1 組において、山口市教育委員会 AET の Todd Monsell 氏と筆者がティーム・ティーチングによって文法事項の確認と練習を行ったときの記録を紹介したい。

1. 教材 *NEW HORIZON English Course 1 Unit 5*

カルガモのきょうだい／ハンバーガーショップで

2. 教材のとらえ方

(1) 生徒は、言語の知識を自動的に操作できるように練習する場において集中して取り組んでいる。

本学級の生徒は、入学当初から英語に興味を持ち、授業への取り組みが意欲的である。言語の学習には提示－練習－使用というサイクルがあるが、徐々に生徒の発話の自由度を増していく工夫を体系化した練習の際に集中して取り組んでいる。そのため、実際の言語使用の場面でも少ない負荷量で言語操作を行い円滑なコミュニケーションを図ることができる。しかし、Michael McCarthy(1991)において指摘されているように、生徒の move

*山口市立大内中学校 教諭

は responding moves にまだまだ限られているように見受けられるので、production のレベルで英語を使用することができるよう、生徒の自己表現の発表活動を含めた会話を授業の中で多く取り入れていきたいと考えている。

- (2) JTE、AET、及び生徒を含めての会話を通して文法事項の確認や練習を行うことができる教材である。

本教材は、数を尋ねる言い方やその答え方を導入し、買い物の問答を扱う。さらに、予定や計画を尋ね、相手を勧誘する表現にも慣れることができる教材である。これまでのユニットで、Asking for information→Reporting、Asking if someone knows about something→Saying you know about something/Saying you do not know、Asking about likes→Expressing likes/Expressing dislikes、Saying you are interested→Agreeing、Reporting→Showing you are listening¹ といった機能連鎖が既習であるので、これらの機能連鎖を絡めながら幅広いまとまりのある対話練習ができる。

- (3) 練習や文法事項のまとめをティーム・ティーチングによって効果的に行いたい。

既習の言語材料を盛り込んで AET と JTE とが会話を進め、随時生徒も会話に組み込んでいきたい。話題は身近なもので、実物、写真、絵などを効果的に用いることにより練習を活性化する工夫をしていきたい。また、生徒の自己表現の発表活動をもとに談話を発展させていくこともできる。AET が cue を出し、文型練習を行う際には、自然な会話表現に近い meaningful なモデル文や正しい発音を示すなど、AET の特性を生かした練習を展開していきたい。練習に工夫を加え現実的な言語使用の機会を多くすることによって、伝達に有効な言語能力に転化していくことができるように支援したい。

3. 学習目標

初歩的な英語を用いて身近で簡単なことについて話すことができる。

4. 学習計画

(1) あるものの数を尋ねたり、それに答えたりする言い方ができる。— 1 時間

(2) 2 つのものについて、どちらがよいかを尋ねたり、それに答えたりする言い方ができる。

簡単な買い物の問答ができる。————— 1 時間

(3) 本文を参考にして、次の休日の計画の有無等について問答する。— 1 時間

(4) 会話を通して文法事項のまとめや練習を行う。——— 1 時間(本時 1 / 1)

5. 本時の学習

(1) 主眼 会話を通して文法事項のまとめや練習を行う。

(2) 準備物 ピクチャーカード、写真、教材提示機、フラッシュカード、
センテンスカード、ネームカード、CD ラジカセ、具体物、
マグネットつきの小黒板

(3) 授業の過程

学習内容・学習活動	教師の手だて
1. Greetings 2. Warm-up 3. Review <ul style="list-style-type: none"> • Listening • Oral reading <ul style="list-style-type: none"> Choral reading Individual reading • Oral practice <ul style="list-style-type: none"> Pattern practice Language use practice 4. Consolidation <ul style="list-style-type: none"> • Evaluation sheet の記入を行う。 	1. 英語で学ぶ雰囲気づくりをする。 2. 音楽 ² にあわせて1から10までの数字と自然な英語の発音、リズムを身につけることができるようにする。 3. <p>聴いた内容を文字で確認したり、音読の練習を行うことにより、文字と音声の連合、文構造の定着をはかる。</p> <p>生徒の発話の自由度を増していく工夫を体系化したものとして文型練習をとらえ次の生徒の発表を含めた会話につなげていきたい。</p> <p>会話による前時の文型や文法事項の復習、生徒の自己表現の発表活動を行い練習を活性化させていきたい。</p> 4. <p>生徒自らが自分の学習方向を具体的につかむような自己評価力を育成し、生徒の自己教育力を育てたい。</p>

Team Teaching Plan

1. School Name : Shiraishi Junior High School
2. Date : Friday, July 16, 1999
3. JTE : Yoko Fujiwara
4. AET : Todd Monsell
5. Class : 1-1 (16 boys, 14 girls)
6. Teaching Materials : *NEW HORIZON English Course* Book 1 Unit 5
7. Aims of this lesson: The students review the theoretic use of grammar point:
Do you have any ~ ? / How many ~s do you have?
The students have hands-on experience with English conversation through listening and practice.
8. Procedure

Activities	STUDENTS	JTE	AET
1. Greetings	Greet the AET/JTE	Greets the class	Greets the class
2. Warm-up	Counting the number 1—10 to the music	Starts music	Shows how to play
3. Review			
• Listening	Listen to AET and JTE	Reads the textbook	Reads the textbook
• Oral Reading	Repeat after AET/JTE Individual reading	Model reading Helps and encourages the students	Model reading Helps and encourages the students
• Oral practice Pattern practice	Practice the sentence pattern	Gives a cue Demonstrates with the AET how the task goes	Gives a cue Demonstrates with the JTE how the task goes
Language use practice	Listen and watch Talk with AET about their brothers or sisters Talk with friends/JTE/AET about their family, friends, possessions (Showing some pictures, objects, etc.)	Talks with AET about her brother (Showing some pictures) Helps and encourages the students Talks with the students about their family, friends, possessions	Talks with JTE about his brother (Showing some pictures) Talks with the students about their brothers or sisters Talks with the students about their family, friends, possessions

4. Consolidation	Write down the evaluation sheet	Gives the students suggestions	Gives the students suggestions
------------------	---------------------------------	--------------------------------	--------------------------------

(4) 評価

- ・既習の文法事項をまとまりのある会話の中で使用することができたか。
- ・積極的にコミュニケーションを図ろうとしたか。

(5) 板書計画

Friday 16th July

数をたずねる言い方とその答え方

Do you have any _____?

Yes, I do. No, I don't.

I don't have any _____s.

How many _____s do you have?

I have one _____.

I have ☐ _____s.

You: I like _____.

I have some _____.

Todd: Oh, really?

How many _____s do you have?

You: About _____.

Here.

Todd: _____.

You: Do you have any _____s?

Todd: _____.

↑

センテンスカード

↑

マグネットつきの
小黑板

↓

会話の流れ

3. 考察——文法事項の確認と練習を中心に——

本時の授業における文法事項の確認と練習を次の6つの場面でふりかえってみたい。

(1) 文型練習による復習 1

生徒と対話を交わしながら、随時黒板にセンテンスカードを貼っていった。同時に、黒板にスピーディーに絵を貼っていき、その絵を cue として口頭作業を行った（次の囲み参照）。

① Do you have any _____s?

Yes, I do. No, I don't.

⑤ I don't have any _____s.

② How many _____s do you have?

③ I have one _____.

④ I have ☐ _____s.

↓
会話の流れ

①T: (黒板に絵を貼りながら)racket

S: Do you have any rackets?

bag

S: Do you have any bags?

CD

S: Do you have any CDs?

comic book

S: Do you have any comic books?

cat

S: Do you have any cats?

sister

S: Do you have any sisters?

brother

S: Do you have any brothers?

②T: (黒板に絵を貼りながら)racket

S: How many rackets do you have?

bag

S: How many bags do you have?

CD

S: How many CDs do you have?

comic book

S: How many comic books do you have?

cat

S: How many cats do you have?

sister

S: How many sisters do you have?

brother

S: How many brothers do you have?

③T: (黒板に絵を貼りながら)racket

S: I have one racket.

bag

S: I have one bag.

sister

S: I have one sister.

brother

S: I have one brother.

④T: (黒板に絵を貼りながら)

two comic books

S: I have two comic books.

cats

S: I have two cats.

rackets

S: I have two rackets.

brothers

S: I have two brothers.

sisters

S: I have two sisters.

⑤T: (黒板に絵を貼りながら)

sisters

S: I don't have any sisters.

brothers

S: I don't have any brothers.

(2) 文型練習による復習 2

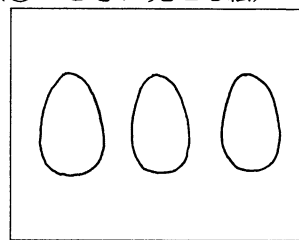
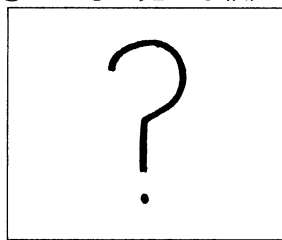
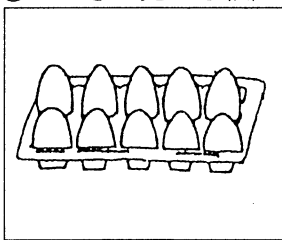
AET: (たまご 10 個の絵を見せて) I have ten eggs. ——— ⑥

ST: You have ten eggs.

JTE: ? (question) (ST1 を指名)
 ST1: Do you have ten eggs?
 JTE: (Class)
 ST : Do you have ten eggs?
 AET: (? マークの描いてある絵に持ちかえて)
 No, I don't. I don't have ten eggs. _____ ⑦
 JTE: How many? (ST2 を指名)
 ST2: How many eggs do you have?
 JTE: (Class)
 ST : How many eggs do you have?
 AET: (? マークの紙を裏返してたまご3つの絵を見せる)
 I have three eggs. _____ ⑧
 ST : You have three eggs.

上の囲みの場合であれば、下のように順次絵を示していく。

(⑥のときに見せる絵) → (⑦のときに見せる絵) → (⑧のときに見せる絵)



たまごの他に、ボール、ペン、コンピュータの絵を使って同様に口頭作業を行う。

(3) 文型練習による復習 3

ST3: I have ten eggs.
 ST : You have ten eggs.
 AET: ? (question) (ST4 を指名)
 ST4: Do you have ten eggs?
 AET: (Class)
 ST : Do you have ten eggs?
 ST3: Yes, I do. I have ten eggs.

生徒が1人前に出て、10個のたまごの絵を他の生徒に示しながら“I have ten eggs.”と発話する。他の生徒は一斉に主語をYouにかえてリピートする。AETは順次 cue を与えていく。たまごの他に、ボール、ペン、コンピュータの絵を使って同様に口頭作業を行う。

あるいは、生徒対生徒のやりとりをより自然なものにするために、以下のような方法も考えられる。

ST5: (4 パターンのたまごの絵を見せる) ————— ⑨

ST6: (たまごの数を推測して) Do you have two eggs?

↓

ST6 の予想が当たっている場合

ST5: (たまご 2 個の絵を見せて)

Yes, I do. I have two eggs. ————— ⑩

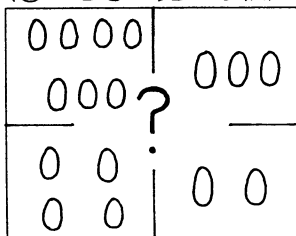
ST6 の予想が違っている場合

ST5: No, I don' t. I don' t have two eggs.

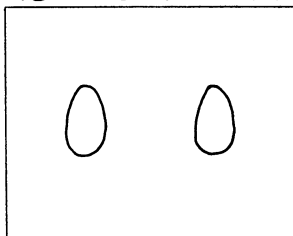
ST6: How many eggs do you have?

ST5: (たまご 7 個の絵を示して) I have seven eggs. ————— ⑪

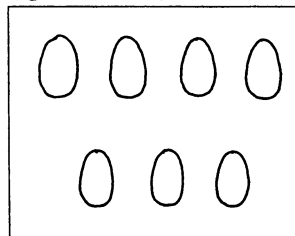
(⑨のときに見せる絵)



(⑩のときに見せる絵)



(⑪のときに見せる絵)



(4) 文型練習による復習 4

ST7: I have ten eggs.

↓ How many eggs do you have?

ST8: I have three eggs.

↓ How many eggs do you have?

ST9: I have four eggs.

↓ How many eggs do you have?

.

.

.



列ごとに Chain drill を行う。教室には縦に 6 列あるので、例えば 1 列目にはたまごの絵、2 列目にはボールの絵、6 列目にはグラスの絵を渡す。同じ列であれば持っている絵の種類は同じであるが、描かれているものの数は生徒によって異なっている。そこで、上の囲みのように、前から後ろの生徒に向かってカードに描かれているものの数を尋ね、後ろの生徒はそれに答える、ということをリレー形式で行う。一番後ろの席までいったら今度は前の席に向かって再度同様の対話を行い、一番前の生徒が終わったら挙手をするように指示し、列ごとにタイムを計測する。

(5) 会話に主眼をおいた復習 (下線部が基本文)

JTE : Do you have any brothers or sisters?
 AET : Yes, I have one brother.
 JTE : Please show us a picture of him.
 AET : (Shows a picture of his brother.)
 JTE : Thank you. How old is he?
 AET : He's _____.
 Do you have any brothers?
 JTE : Yes, I do.
 AET : How many brothers do you have?
 JTE : I have one brother.
 AET : How old is he?
 JTE : He's _____.
 AET : I see. How about you? Do you have any brothers?
 ST10: Yes, I do.
 AET : How many brothers do you have?
 ST11: I have two brothers.
 . . .

前時の新文型を盛りこんで AET と JTE とが会話を進めていく。随時、生徒も会話に組みこんでいく。この際、写真や絵などを効果的に用いることにより対話をふくらませたり練習を活性化させていくことができるように工夫する。

(6) 生徒の発表を含めた会話

ST12: I like music.
 I have many CDs.
 AET : Oh, really? How many CDs do you have?
 ST12: About thirty. Here. (実物／写真を見せる)
 AET : Great!
 ST12: Do you have any CDs?
 AET : Yes, I have about ten CDs.
 I like music, too.

対話の枠組みだけ示し、下線部のところは生徒が自分の立場でかえて表現する。AET にもその場で適切なコメントや応答をしてもらい、生徒の自己表現の発表活動をもとに談話を発展させていくように支援していく。生徒が AET と対話を続けていきコミュニケーションを成立させることの喜びを味わうことができる機会にもしたい。

Byrne(1986)によれば、最初に提示された際の即時のプラクティスをかなりの量必要とするだけでなく絶え間ない復習も必要である。そうして、口頭での流暢さという目的に至るためにはモデルを模倣したり cue に応答したりする段階から、自由にその言語を使用して自分の考えを表現することができる段階にまで生徒を導かな

なければならない。本時の授業では、数を尋ねる言い方とその答え方についてくりかえしドリルを行い、最終的には、対話という文脈の中で生きた英語を生徒が練習できるような時間を可能な限り多く持つようにした。

生徒達の感想には「何回も数を尋ねる言い方と答え方をやったのでよくわかった。」「前に習っていた復習だったのでよくわかった。おもしろかった。」など、文法事項の確認と復習をくりかえし行うことにより「よくわかった」という自信につながったというものが見られた。また、「クラスの人やTodd先生、藤原先生たちと話をしたり紹介しあったりして楽しかった。」「対話ができてよかった。」「Very interesting!」など友達や先生と対話をすることができたという成就感や喜びを表現した生徒も多く見られた。

4. おわりに

本稿においては、会話による前時の文型や文法事項の確認をティーム・ティーチングで行う場面の実践例の紹介と考察を行ってきた。飯野(1985)が述べているように、言語の学習には反復と累積とが必要である。言語の知識を自動的に操作できるようになるまでくりかえし練習し、次の段階に進んでからも前時までの学習事項をしばしば復習し学習をより確かなものに高めていくことが大切である。練習の質と量に考慮しながら、AETの特性を生かした練習を工夫し練習を活性化させることによって、生徒の学習効果をより一層高めていきたい。

【註】1 Blundell, J., J. Higgins, and N. Middlemiss. 1982. *Function in English* における List of functions に掲げられている機能を参照した。

2 キディ・キャット編集部 編. 1988. 『えいごのあそびうた図鑑 マザーグースとあそぼうよ』東京：アルク。

【参考文献】Byrne, D. 1986. *Teaching Oral English*. Harlow Longman.

McCarthy, M. 1991. *Discourse Analysis for Language Teachers*.
Cambridge: Cambridge Univ. Press.

浅野 博 他. 1997. *NEW HORIZON English Course 1*. 東京：東京書籍。

飯野至誠. 1985. 『英語の教育』東京：大修館書店。

岡崎天隆・浜田紀郎 編. 1990. 『ティーム・ティーチング指導事例集～効果的なティーム・ティーチングを目指して～ 中学校編』山口県教育委員会。

【付記】本稿は、平成11年12月11日 第6回山口大学英語教育研究会における口頭発表の内容である。なお、山口市立白石中学校(2000)『平成11年度実践のまとめ』26—31頁に実践事例として掲載されている。

また、本授業を行うにあたり、金田道和教授(山口大学)に貴重なご示唆とご助言をいただいた。記して厚く謝意を表したい。